

ジギタリス



古くからジギタリスはヨーロッパの民話、民間薬とし、さらには家庭園芸として親しまれてきた。ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae) のジギタリス属植物は20種以上が知られ、薬用として *Digitalis purpurea* L. と *D. lanata* Ehrh. があり、ともに

2年生または多年生草本である。

D. purpurea L. はヨーロッパ西、中部の山岳地帯を原産地とし、アイルランドでは中世紀の初め頃には *Sian* と呼び、民間で薬用とした。昨年、著者はアイルランドのダブリンから約40K南の Glendalough にある古い教会附近と、スコットランドのネス湖周辺に群生しているのに出あい、この地ではごく普通の植物の感を深くした。この植物には *Foxglove* (英)、*Fingerhut* (独)、*キツネノテブクロ* の名があるように、人差指が花冠中にはいるほどの袋状をした紅紫色花をつける。6月頃から花穂状の下位から上部へ開花し、古くなった花冠は抜け落ちて、二長雄蕊をつけたままの青い果実が残る。熟すると二つに割れ、1000粒が約0.08g という褐色の細粒種子がこぼれ落ちる。長楕円形の葉は脈が縦横に走り、ジギタリス葉を特徴づける縮緬皺をつくっている。薬用には栽培品の葉を用い、



開花すこし前に採取して、60°Cまでの温度ですみやかに乾燥して有効成分の分解を防ぐ必要がある。

薬物書による紹介は1500年後頃から見られるようになり、Willam Withering は1775年、当時民間で水腫薬とした種々の植物のうちから、ジギタリス葉を有効とし、臨床実験を重ね、10年後ジギタリスとその薬用法を発表

した。Adolphe Nativelle は1869年、結晶性物質を単離し、Oswald Schmiederberg が1875年に *Digitoxin* と命名した。これらのことから1890年以後、浮腫治療、心臓に対する作用について多くの研究がうまれ、さらに20世紀にかけて強心配糖体として *gitoxin*, *gitaloxin* 等、また、ステロイドサポニンとして *digitonin*, *gitonin* 等、多くの成分を知ることになり、うつ血性心不全、高血圧症、心筋梗塞、狭心症、弁膜障害等に奏効するとして用いられることとなった。

D. lanata Ehrh. ケジギタリスは、オーストリア、ハンガリー等に野生、葉は披針形で無柄、花は白または帯褐色で前者と異っている。1924年、Wasicky が強心利尿作用を見出し、1930年、Sydney Smith は配糖体 *digoxin* を単離し、さらに *digilanide*, *lanatoside A, B, C* を分離した。ジギタリス特に *digitoxin* は心筋との結合力が強く排泄が遅いため、連用にて蓄積されるので注意が必要とするが、*D. lanata* Ehrh. の薬ではより早く作用し、蓄積作用もすくないといわれている。

(太田長世)





新入学生を迎えて

学 長 藤 田 榮 一

大学院新入生を迎えて

昭和63年度本学大学院博士前期課程に新しい院生13名を、また同博士後期課程に新しい院生1名を受け入れることになりました。これらの諸君はいずれも本学学部卒業生ならびに本学博士前期課程の修了生であります。ここに大学院入学を心からお祝い致します。

本学の大学院は昭和50年に修士課程の設立が認められ、つづいて昭和59年博士課程が設置されました。以来年を追って名実ともに充実しつつあります。

大学院進入学の皆さんは、すでに学部での基礎教育、あるいは博士前期課程における高度の専門教育を受け、それらを修得された方々であります。この四年間あるいは六年間のコースを通して、学問のきびしさを体験されたとともに、さらに深い専門知識の獲得と、より高度な研究にとり組もうとされているわけであります。

自然科学の目をみはるような急速な進歩発展は、それに対応して研究を進めることのできる柔軟な鋭い頭脳を要求しています。時代の先端をゆく自然科学の研究を推進してゆく若い優秀な研究者が、今ほど高度に要求されている時代はかつてありませんでした。薬学研究の分野でもまさに然りであります。皆さんは新しい時代に向けて誠に大きな期待をかけられた若き溢れる研究者なのです。大学院に入学した以上、目標ははっきりきまっています。全力投球で研究テーマに挑戦あるのみです。今日からは一途に advanced pharmaceutical sciences の牙城をめざして邁進しようではありませんか。

新しい門出にあたり、お祝いと激励の言葉を送ります。大阪薬科大学大学院新入生に栄光あれ！

学部新入生を迎えて

入学試験の難関を突破され、本学に入学されました学生諸君。誠にめでたうございます。心からお祝い

申し上げます。

いよいよ大学生活のスタートです。この機会に心をひきしめて、決意を新たにしてほしいと思います。まず第一に皆さんは大学生になったという自覚をしっかりと胸にいだいていただきたい。もう中学生や高校生ではないのです。将来社会人として独立する一歩手前の、人生における非常に重要なエポックの第一歩をふみ出したのです。この四年間こそ皆さんの一生を左右する極めて重要な時代です。絶対に無意味に無駄に過ぎないでほしいと念願します。

高校時代までは、極端に言えば上級校への進学のための準備に追われっぱなしの生活であった人も多数おられることと思います。大学は強制されて勉強するのではなく、自主的に自分の意志で勉強するところです。どうぞ自分の選ばれた薬学の勉強を十分に行って専門の知識をたくわえて下さい。皆さんは将来卒業して社会に出てから、薬学関連の広い分野での活躍が期待されます。専門的な知識が、必ずや大いに役立つにちがいありません。最近多くの大学で、学生諸君が「やる気」がなく、「考える」ことをきらい、「単位さえ取れば」という消極的な傾向になっているという声をしばしば耳にします。折角あたえられた大学生活という特権を放棄して、怠惰に走る学生がふえるということは、誠に憂慮すべき事態といわざるを得ません。自分の立場を十分認識して、すべからず誠意をもち、努力を重ね、勇気に満ちた積極的な生活を送られるよう望みます。

次に重要なことは自らの健康管理です。健康の有難さは、病気になってみればじめて強く感じます。日頃丈夫な人は健康状態についてほとんど気にかけず、健康な状態をあたりまえのことと受けとり、往々にして無理しがちであります。これが度重なると、とりかえしのつかない病気に悩まされることになりかねません。病気のために折角の一生を台なしにすることになっては、誠に不幸であります。常に規則正しい健全な生活態度を自分の意志で保持され、健康維持を心がけて下

さい。さらにクラブに所属して積極的に鍛錬し、健康増進をめざすのも大変好ましいことと思います。自分の体力に応じてさらに増強をはかられるよう努力されるといいと思います。

第三に精神面での問題があります。健康でよく勉強するだけでは十分とはいえません。人間はたった一人で生活することはできません。皆社会の一員として生活しています。皆さんは大阪薬科大学の学生の一人です。誰でも最初は自分を一番大事に考えますが、それだけでは生きてゆくことはできません。必ず他の人と親しくつきあってゆくことが必要です。しかし他人と親しくするだけで果してよいのでしょうか。

相手の立場にたって考えることが必要です。そして相手の人が少しでも幸福になるように考えるようになるはずです。他人に対するささやかな親切心でも、社会を明るくするにちがひありません。そうなれば自分も幸福感を味わうことになります。大学におけるクラブ活動がよい友を得ることを助長し、また他人に対する思いやりの心をさらにサービス精神にまで高める手助けになるものであってほしいと思います。これが将来社会に奉仕する精神の涵養に役立てば、すばらしいことと思います。

どうぞ身心ともに健康で、充実した大学生活を送られるよう切に望みます。



新入生を迎えて

教務部長 小 澤 貢

新入生の皆さん、御入学お目出とうございます。長かった受験勉強から解放され、ほっと一息ついておられることと思います。希望に胸を膨らませ、薬学の道へと第一歩を踏み出された皆さんを心から歓迎いたします。

大学とは、自分で目標を立て、自主的に学び、真理を探究する場、と言われていました。しかし一方では“大学レジャーランド”といった陰口もあります。“自主的に学ぶ”の美言に惑わされて、いつのまにか“レジャーランドに遊ぶ”にならないよう十分に注意して下さい。薬学は比較的目標のはっきりした学問なのですが、医学、歯学等と比べると卒業後の進路が薬局、病院薬剤師から衛生関係、医薬品、化学工業従事者と幅広く、従って、大学における教科内容も多岐にわたっています。社会の要求に答えられる教養と薬学士、薬剤師としての基礎知識、専門知識を身につけるには4年間は決して長くはありません。薬学を選ばれた皆さんは当然薬剤師を目指しておられると思いますが、

そのための勉強は決して易しいものではありません。当然のことですが、自主的に、積極的に講義に出席して基礎知識をしっかりと身につけ、その上に専門知識を積み重ねることが、大切です。この点を十分心してかかれないと、今までの受験勉強と変わらない味気のない、押しつけ授業的感覚に陥ってしまいます。本学のカリキュラムは単位制と学年制の混合した形を取っております。従って、卒業迄に指定単位数を揃えることが必要なのは当然ですが、進級時には未取得科目を4科目以内に抑えておくことも必要です。これらのことに絡んで、試験その他のいろいろな履修規定がありますから、学生便覧をよく読み、わからない点があればアドバイザーの先生や教務部に問い合わせるように心掛けて下さい。大学受験勉強から解放され、希望に満ちた生活への第一歩を踏み出された皆さんにとって、今はあまり考えたくないことを並べたかもしれませんが、少しでも早く浮ついた気持ちから抜け出し、充実した学生生活を送られるよう祈念致します。



新入生を迎えて

学生部長 望 月 伸 三 郎

新入生の皆さん、入学おめでとう！中学から高校、高校から大学へと進む道では、常に入学試験を念頭に入れての生活が大きな比重を占めていたことと思います。そのような生活をふり返って、灰色だったか、バラ色だったかは自分で感じるのですが、日本人はテンション民族と言われ、それをもじって、ツレション民族とも言われます。誰か1人が「トイレ」と言えば、私も、僕も、といった群ができます。

入学試験を「受験戦争」だ「灰色の青春」だと言えば何んとなく、そう思ってしまう社会的風土があります。

入学試験は、戦争でも、灰色でもありません。生物学では、適度の刺激によってその能力を高める「low of use (使用の法則)」という言葉があります。知的能力を高める良い機会であったと思えば充実した生活と受け取れます。

大学生活はその意味で自己の能力を伸ばす良い時期

であります。勉学に、運動に、文化的行事や趣味に青春の情熱を発揮し、活躍することを待っています。私の担当教科は体育ですが、体育の求める健康には、栄養、運動、休養のバランスが必要です。たとえ受験勉強であっても高校までの勉強が、学生としての栄養であれば、当然に運動、休養のバランスが求められます。この場合の運動、休養は受験勉強以外のもの、体力造りや健康を目指す体育クラブ、趣味や芸術の文化クラブ、1人静かに思索に耽る、好きな本を読み漁るなどといったことになると思います。またクラブ活動は自己の能力を伸ばすと共に人間としての触れ合いの大切さを体験させてくれることでしょう。

今迄の受験勉強に大きなウェイトをおいた生活から気分を替え、生活内容を変えて、バランスをとりながら自己を高めてゆくのが大学生としての自覚です。

皆さんの大学生活を有意義に全うすることを願いながらお手伝いするために学生部はあるのです。



就 任 に 際 し て

就職部長 沼 田 敦

職業の選択は卒業後の人生を左右する重大な課題であり、したがって、これを手助けする就職部の仕事も重要であります。本年度から2年間因らずも私がこれに携わることになり、職責の重大さを痛感しております。薬系大学の卒業生の激増、薬価切下げなどの影響を受け、厳しい就職戦線の下で、本年卒業生の就職が別表のように好成績となりました。これは前部長森坂勝昭先生の精力的な御指導御努力によるものであり敬意を表する次第であります。就職幹旋に関しては難しい問題が多々あるようですので、諸先生の御協力の下、就職委員千態正彦、松村瑛子両先生の御助力を得まし

て、現状に即した問題の解決法を考えて行きたいと思っております。

人生は選択で始まります。学校、友人、配偶者、住宅、職業などすべて選択によってきまりますが、なかでも職業の選択は最も重要であります。大きな夢をもって将来を見つめ、職業を考える必要がありますが、自分の個性と能力に合った職業を選択しなければなりません。しかし、希望通りの職に就ける人は稀であり、幸運な人であります。たとえ、希望の職に就けなくとも、そこで勇気をもって努力すれば新たな人生観が生れるでしょう。

云うまでもなく社会で人間関係が重要であり、求人側は能力があり、かつ人間性のある人物を採用の対象とするでしょう。学生諸君は在学中常に誠意と真摯な態度で人に接するよう心がけ、人間性を高めるように

努めて頂きたいと思います。人と人との和を大切にしようとする気持は礼儀として表われるものであり、礼儀をわきまえていなければなりません。それは採用の鍵となる面接で必ず役に立つと信じます。

昭和63年3月卒業生（第35期生）進路・就職状況一覧表

昭和63年3月19日現在

<進路>

		男 子				女 子				合 計	%
		薬	製薬	計	%	薬	製薬	計	%		
卒業 者 数		29	50	79	100.0	87	67	154	100.0	233	100.0
就 職	希 望 者	23	38	61	77.2	82	63	145	94.1	206	88.4
	決 定 者	18	36	54	68.4	70	58	128	83.1	182	78.1
	未 決 定 者	5	2	7	8.8	12	5	17	11.0	24	10.3
	決 定 率 (%)	78.3	94.7	88.5		85.4	92.1	88.3		88.3	
進 学	大 学 院 (修 士)	5	10	15	18.9		1	1	0.7	16	6.8
	病 院 (研 修 生)	1		1	1.3	4	1	5	3.2	6	2.6
	大 学 (研 究 生)										
	受 験 中										
そ の 他	自 家 業		1	1	1.3		1	1	0.7	2	0.9
	*未 定		1	1	1.3	1	1	2	1.3	3	1.3

*未定には「卒業後考える・就職を希望しない」ものを含む。

<就 職>

		男 子				女 子				合 計	%
		薬	製薬	計	%	薬	製薬	計	%		
就 職 希 望 者 数		23	38	61	100.0	82	63	145	100.0	206	100.0
製薬会社	管 理 薬 剤 業 師	7	23	30	49.2	2	3	5	3.5	35	16.9
	学 術 ・ 開 発 ・ 研 究 品 質 管 理 ・ 技 術	2	1	3	4.9	23	18	41	28.3	44	21.4
化 学 ・ 食 品 ・ 化 粧 品		1		1	1.6	7	5	12	8.2	13	6.3
そ の 他 の 会 社 ・ 団 体		1	1	2	3.3	1		1	0.7	3	1.5
病 ・ 医 院 ・ 診 療 所 (薬 局 ・ 臨 床 検 査)		2	6	8	13.1	26	22	48	33.1	56	27.2
卸 ・ 機 器 販 売 ・ 商 社			3	3	4.9	3	4	7	4.8	10	4.8
小 売 販 売 業 (薬 局)		3	2	5	8.2	1	3	4	2.8	9	4.4
公 務 員 (衛 生 行 政)		2		2	3.3		1	1	0.7	3	1.5
大 学 職 員 (副 手) ・ 研 究 補 助 員						7	2	9	6.2	9	4.4
就 職 未 決 定 者		5	2	7	11.5	12	5	17	11.7	24	11.6

昭和63年度予算の概要について

事務局長 吉 野 幸 夫

去る3月25日に開催された理事会および評議員会において、昭和63年度予算が決定されたので、従来の例にならない、消費収支予算書の総括表によって、その概要を説明することとしたい。

消費収入の部について

昭和63年度における収入予算は、帰属収入から基本金組入額を差し引いて、16億22万円、前年度比3492万円増となるが、その要点は、次のとおりである。

- 学生納付金……授業料・入学金等を内容とするもので、当年度においては、本年度の入学生から授業料を増額したことにより、前年度比1億3740万円増の12億6020万円を計上。
- 資産運用収入……銀行預金の利息を主たる内容とするもので、金利等との関係上、前年度比3000万円減の1億2000万円を計上。
- 雑収入……私学退職金財団からの交付金その他を内容とするもので、本年度末における退職予定者との関連から、前年度比2484万円増の4100万円を計上。

消費支出の部について

昭和63年度における支出予算は、16億8642万円で、前年度比317万円減となるが、その要点は、次のとおりである。

- 人件費……教職員の給与費・退職金等を内容とするもので、当年度においては、定期昇給を推算するとともに、本年度末における退職予定者に対する退職

金の増を考慮して、前年度比6660万円増の10億6163万円を計上。

- 教育研究経費……教育研究用の消耗品費・光熱水料その他を内容とするもので、当年度においては、修繕費の実績にかんがみ、前年度比4159万円減の5億962万円を計上。
- 管理経費……事務的経費および学生寮に関する経費を内容とするもので、当年度においては、修繕費の実績にかんがみ、前年度比2357万円減の6783万円を計上。

校舎建築資金の積立

消費収入の部にある基本金組入額は、当年度においては、所定の組入額のほかに、1億円が計上されているが、これは、本年度からの授業料増額に伴う収入増を契機として、将来の校舎建築のための資金を積み立てようとするもので、理事会および評議員会において、今後は毎年度1億円づつを基本金に組み入れることを決定したことによるものである。

翌年度への繰越額について

以上により、昭和63年度における消費収支の帳尻は、8620万円の支出超過（いわゆる赤字）となるが、前年度繰越収入超過額（いわゆる前年度からの繰越額）が2億2936万円あると見込まれるので、差引、昭和64年度への繰越額は、1億4316万円となるものと算定される。

昭和62年度消費収支予算書総括表

〔昭和63年4月1日から
昭和64年3月31日まで〕

消費収入の部				単位円
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)	
学 生 納 付 金	1,260,200,000	1,122,800,000	137,400,000	
手 数 料	67,900,000	67,650,000	250,000	
補 助 金	390,200,000	391,600,000	△ 1,400,000	
資 産 運 用 収 入	120,000,000	150,000,000	△ 30,000,000	
事 業 収 入	17,920,000	17,090,000	830,000	
雑 収 入	41,000,000	16,160,000	24,840,000	
帰 属 収 入 合 計	1,897,220,000	1,765,300,000	131,920,000	
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 297,000,000	△ 200,000,000	△ 97,000,000	
消 費 収 入 の 部 合 計	1,600,220,000	1,565,300,000	34,920,000	

消費支出の部				単位円
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)	
人 件 費	1,061,630,000	995,030,000	66,600,000	
教 育 研 究 経 費	509,620,000	551,210,000	△ 41,590,000	
管 理 経 費	67,830,000	91,400,000	△ 23,570,000	
借 入 金 等 利 息	17,340,000	18,750,000	△ 1,410,000	
資 産 処 分 差 額	0	3,200,000	△ 3,200,000	
予 備 費	30,000,000	30,000,000	0	
消 費 支 出 の 部 合 計	1,686,420,000	1,689,590,000	△ 3,170,000	
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	86,200,000	124,290,000		
前 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	229,360,000	418,800,000		
翌 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	143,160,000	294,510,000		

教務課だより

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。これまで苦しい事、つらい事がいろいろあったと思いますが、入学できたのですから気持ちを切り替えて、大学生活に新たなファイトを燃やして頂きたいと思います。大学生活を送るに当りお願いしておきたいことがあります。

まず、病気でない限り毎日学校に来て授業を受けることです。本学では、授業は原則とし出席制は取っていませんが、大学の勉強は自分からするもので強制されてするものではありません。授業を受けなくて単位は修得できません。学校に来て新しい良き友人を得ているいろいろ語り合うのも大切な事です。

次に、学校に来たら正門横、教務課前の掲示板を必ず見て下さい。時間割の変更、届、申込みの期間、呼出し等連絡事項はすべて掲示で行います。

本学では、選択科目を受験するとき、同科目の再試験

を受験するときは、受験届を所定の期間内に出すことになっていますが、掲示を見ないで、届を出さず、結局受験できなかった人が毎年何人かいます。

掲示を見ないで不利益を受けるのはあなたですからくれぐれも注意願います。ガイダンスの時にも説明がありましたが、学則、学科履修規程を理解しておくことが掲示を見ることと同様に大事なことです。よく読んでおくように改めてお願いをしておきます。

教務課では選択科目履修届、選択科目受験届、欠席届、休学願等各種届や願の受付、成績、卒業証明書の発行など、入学から卒業、卒業後まで諸君のお世話をします。修学上の問題、その他なんで分からないことがあれば気軽に相談ください。私達は誠意をもってお答えしたいと思います。

健康に気を付けて、将来の目標を定め、有意義な学生生活を送って下さい。

学生課だより

☆学生教育研究災害傷害保険について

傷害事故発生の場合、同保険から正課中事故、治療日数4日以上で医療保険金6千円～30万円、課外活動中事故、治療日数14日以上で3万～30万円が傷害程度により支払われます。

しかし事故の届け出（初診料の請求）が遅れると保険金の請求が困難となりますので、必ず事故発生後1か月以内に請求手続をとるようにして下さい。

なお毎年4月に在学学生は全員（特に傷害率の高い体育局クラブに所属する下宿生）健康保険証の写しを学生課へ提出して下さい。（用紙は学生課で配布しています）

未提出の場合、高額な医療費（初診料）を自己負担することになりますので注意して下さい。

☆アルバイトについて

アルバイトのもつ社会勉強という意義は認めますが、その過度の就労は学業不振、留年、退学へ直結する危険性をはらんでいますので、自分の学業、生活習慣、適性に見合った無理のない職種を選択し必要最低限にとどめて下さい。本学では現在教育的観点から主として家庭教師のみを紹介していますので活用して下さい。

特に最近医薬系大学生を対象にした薬品の臨床人体実験（採血や薬品投与）は、後遺障害や副作用の恐れがあり健康上有害と考えられ、本学では禁止事項となっていますので留意して下さい。

☆定期健康診断について

学校保健法により義務づけられている同診断を全学生を対象に4～5月にかけて実施します。検査項目は内科、レントゲン撮影、検尿、視力、色覚、身長、体重、胸囲で、異常が発見された場合は精密検査の受診を指示しています。疾病の早期発見および健康管理のため、事前に配布される健康診断質問票に回答のうえ必ず受診して下さい。

☆遺失物・拾得物について

現在腕時計・現金等貴重品以外の落とし物、忘れ物は学生課前の陳列ケース（下の写真）で3か月を限度に保管していますので心当りのある人は直ちに学生課で確かめて下さい。

また持主の確認が容易なように、所持品（特に教科書、辞書、ノート類）には必ず氏名を記入するようにして下さい。





新任の挨拶

教授 保坂 康弘

今回、御縁があって伝統ある大阪薬科大学に奉職致すことになりました。この間、お世話になった方々に御礼申し上げるとともに、一言新任の御挨拶を申し上げたいと思います。

本学教授に任命されましたことは、小生にとって光栄なことであるとともに、責任の重大さを痛感しております。私は昭和30年名古屋大学医学部を卒業、昭和35年大阪大学大学院医学研究科を修了、それ以来大阪大学微生物病研究所で、主としてインフルエンザ、パラインフルエンザウイルスの研究一筋に励んで参りました。昭和42年には、ウイルス粒子の微細構造の仕事で日本電子顕微鏡学会瀬藤賞を授与されました。昭和49～51年にかけて、米国フィラデルフィアのウイスター研究所に、二年余の留学生を送り、また昭和61年には西安医科大学で開催されたWHO主催全中国医学電子顕微鏡研修コースには、国際アドバイザーの一人として指導にあたり、同大学顧問教授の称号を授与されました。以上の経験と智恵を生かして、本学における教育と研究の事業に、全力を傾けたいと期しております。

御存知のように、医薬学を含む生物学全般の状況は、数年来著しく変わってきました。その特徴を3つほど挙げてみたいと思います。第一は、生物学革命とも称される遺伝子操作法の開発進歩で、人間の健康維持に重要な遺伝子の構造と機能の研究が進み、新しい医薬品の開発と生産が容易になったこと、第二は、コンピューターの導入による情報革命の波が、生物学界に浸透したことで、画像解析、データ処理から論文作成に至るまで、我々の手で迅速正確に情報作業が出来るようになったこと、第三は、人間社会を悩ます病気の様変わり。出生率の減少と平均寿命の延長により長寿社会となり、成人病、老人病が、次第に医療の主な対象となってきたことと、細菌性の疾患、ポリオ、はしか等のウイルス病が、抗生物質や生ワクチンで駆逐されて、治療や予防の困難な難病やウイルス病そしてエイズが、現代医薬学の研究対象として主役の仲間に加わったこと。このような状況に対処して、本学におきましても、カリキュラムの改善や学外実習制度の開設、

分析機器の整備拡充など、時代に対応する諸施策が実行されていると聞きました。私としましては、微生物や医薬品に関わる遺伝子研究の重要性を日頃痛感しておりますので、私自身この分野の研究を進めるとともに、この方面の研究教育条件の改善のために微力を尽くしたいと考えております。更に本学の学問の成果の国際的な主張と普及に尽力したいと思っています。

最後になりましたが、学長、理事、評議員、教職員及び関係各位の御指導と御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。また同窓会、父兄会の皆様方の御協力をお願い致します。学生諸君にも、心からの親愛の挨拶を送ります。

●研究室だより

第一薬品製造学教室

教授 栗原 拓史



「母校に帰るのが一番よいでしょうネ」「早く仕事をまとめて帰って来いヨ」というお二人の恩師の御意見もあって、母校に着任したのが昭和42年6月、あれからもう21年も経過したとは……。

昭和46年8月留学から帰国してすぐ現在の研究室と個室を頂き、スタッフ1名(私自身)、学生0名から出発したことが今ではなつかしく思い出される。しばらく専門英語、農業学といった慣れない科目を命ぜられるがままにしばらく担当した後、有機合成化学を製薬学科の学生諸君に講義するようになった。以来名前は薬品製造学に変更はされたものの、半分の学生のみにしかな教育していないという不足はたえずつきまどっていた。



前列左から米田助手, 栗原教授, 春沢講師,
後列右端松原院生, その前坂之上院生, 他は4回生

昭和62年4月カリキュラム変更に伴ない, 名前も第一薬品製造学教室となり薬学科, 製薬学科全学生に対し薬品製造学を講義することができるようになったのは私にはとても満足できるものであった。その時点から赤木助教授と薬品製造学の実習を協同して担当するようになった。

教室をもって以来私の歩んできた道は“自分の能力の範囲で決して無理することなく, しかしたえず全力を集中して頑張る”というものであった。「含窒素複素環化合物の合成」という漠然としたテーマを掲げながら, ある複素環化合物をターゲットにその合成を目指し, また複素環自体のもつ反応性に興味を抱きつけて今日まできた。教授にさせて頂いて以来, スタッフとして昭和52年卒春沢君(薬博)と昭和58年卒の米田君(薬修)を助手に迎え, 有機リン系合成試薬を用いた研究にも手を広げ, 幸い今のところ満足する成果が得られていると自負している。「メジシナルケミストリー」にも興味を持っており, そちらにも手を伸ばしてみたいと考えている。また春沢君は留学帰国後は私も全く経験のない最近はやりのラジカルを中間体とした新反応を展開してくれつつあり, 両君の今後の成長を期待している。

幸いここ数年毎年1名ずつ大学院生が残ってくれ, 強力な一員となってきている。どういふ訳か今年は7名もの特研生が来てくれ, さらに自発的に実験しに来ている1名を加え, 近年にない大所帯になりそうで実はずれい悲鳴をあげているところである。

今年4月から春沢君が講師に昇進してくれたことでもあり, これを契機に一層の教室の充実, 発展を期したいと考えている次第である。

卒業式

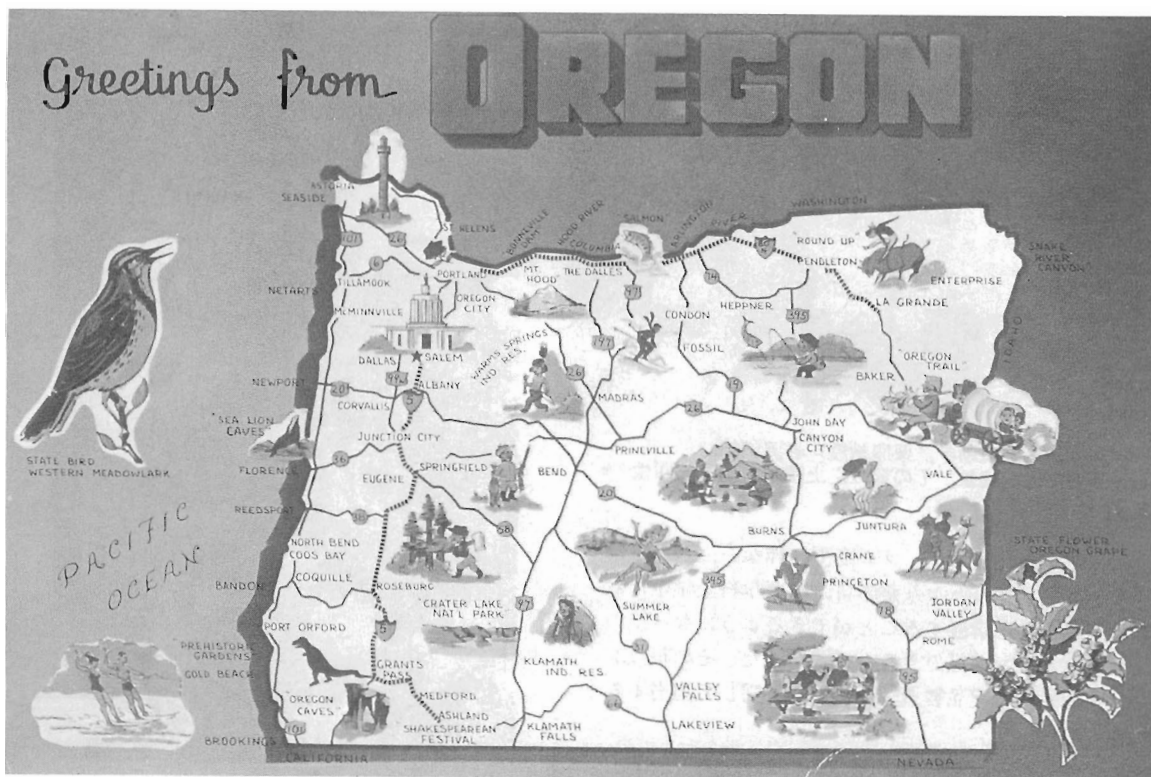


3月19日(土)第35回学部卒業式並びに第12回大学院修了式(学部233名, 大学院修了生12名)が, 来賓, 父兄参列のもとに盛大に挙行された。

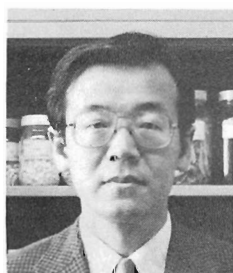
入学式



4月8日(金)昭和63年度学部ならびに大学院入学式(学部入学生263名, 大学院入学生14名)が, 来賓, 父兄参列のもとに挙行された。



オレゴン州の地図



オレゴン留学記

講師 三野芳紀

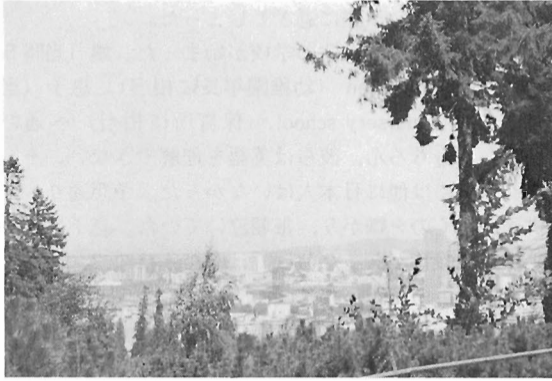
私は、1986年8月より1年間、ポス・ドク（post doctoral associate）として、米国オレゴン州ポートランド郊外のオレゴン・グラデュエート・センター Oregon Graduate Center（以下 OGC と略す）に留学する機会を得ました。家族と共に過ごした異国での1年を振り返り、ここに紹介したいと思います。

ポートランド（Portland, OR）

オレゴン州は、日本人には馴染の多いカリフォルニア州の丁度北側に位置する人口約250万人の州（州都：セラム Salem）で、北部を東西に流れるコロンビア川が北隣りのワシントン州との州境となっている。太平洋に注ぐコロンビア川河口より約170km上流には、

木材や小麦を積んだ太平洋航路の船が年間約1,400隻出入りするという太平洋側の代表的河港都市であり、オレゴン最大の都市ポートランドがある。“バラの都”と称されるこの町では、毎年6月にローズ・フェスティバルが開かれ、全米各地から多くの人々が詰め掛ける。また、ポートランドを起点に南へ約200kmに広がるウィラメット・バレーと呼ばれる一帯は、東にカスケード山脈、西には太平洋に傾斜する台地にはさまれ、ゆったりとした田園風景をもつ一方、州都セラムやオレゴン大学本部のあるユージン Eugene などの主要都市を擁している。その中央を流れるのは、もちろんコロンビア川の支流ウィラメット川である。

私達の生活したポートランド（正確にはビーバート



動物園より見たポートランド市街地

ン)は緯度約45度で稚内とほぼ同じに位置している。実際、夏はとても涼しく、姉妹都市札幌のように過ごしやすい所である。そのわりには、冬の寒さは穏やかで、大阪の冬と大差ない。ただ冬の時期、雨の多いのが唯一の欠点であろうか。晴れの日には、市内から北にセント・ヘレン、東にオレゴン富士とも呼ばれ、年中スキーを楽しめるマウント・フッドが望める。1980年のセント・ヘレンの大噴火の前までは、停年退職したアメリカ人が最も住みたい都市として、人気があったという。

オレゴンと聞くと、大方の人は、砂漠の中で子供が走り回っている光景を思い浮かべるようだ。それはセントラル・オレゴンを舞台としたテレビ・ドラマ「オレゴンからの愛」のせいで、ポートランドは「広りっぱな都会であることを強調したい。

米国滞在1日目

そのポートランド空港へ、ユナイテッド航空で到着したのは、先生方や多勢の学生たちに見送られて大阪空港を出発後、成田経由で日本を離れて、約半日後(現地時間：7月21日昼過ぎ)であった。

その日、ポートランドは、7月末にしては珍らしく曇り空で、気温も低く、西海岸の青い空を想像していた私達には意外であった。空港には、私の上司になるジョアン・ローア Joann Loehr 教授(以下ジョアンと略す)と私生活の面で1年間親戚以上にお世話になる堀井氏のあたたかい笑顔があり、私達の心細さを柔らげてくれた。私達のたくさんの荷物を彼女のワインカラーのベントに積み込み、OGCの近くに用意してくれたアパートに向けて、出発した。途中、ポートランド市内をゆるやかに流れるウィラメット川の景観を見ながら、とうとうアメリカに来たという実感に浸っていた。市内からフリーウェイ(高速道路に相当、無

料)で西へ約15分、針葉樹の丘陵を越え、ビーバートンに着いた。ジョギング・ジューズで有名なNikeの本社のあるこの町は、自然のあふれる静かな町である。新居となるアパート Heritage Village には、既に、4組のベッド、カウチ、テーブル等の家具類、食器、タオル等が、ジョアンと堀井氏によって用意されていたので、幸いにも、渡米の初日から自分たちのアパートで生活を始めることができた。そのアパートは付近で最も安く(\$350/月)、OGCに約2kmと近いため、バス・ドクや学生たちが多く住んでいた。私の薄給を知っているジョアンは、そこが私達にはベストと判断したのであろう。もちろん、1年間しか滞在しない私達にとっては、十分にあり、少なくとも、あとで付き合うようになる日本企業に勤める日本人の豪邸を知るまでは、満足していた。

子供達の希望で本場のマクドナルドで昼食を済ませたのち、私はジョアンと共にOGCへ行き、研究室の関係者に挨拶廻り、そしてジョアンの夫、トーマス・ローア Thomas Loehr 教授(以下トーマスと略す)に自慢のラマン分光装置をみせて頂いた。装置はジャレル・アッシュ製で十数年以上経過した年代のものであっ



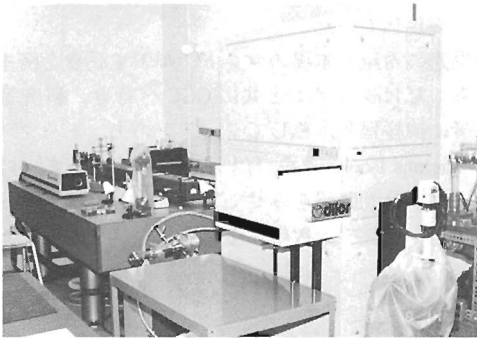
オレゴン・コースト



ローズ・フェスティバル



低温装置 Displex を誇らしげに見るジョアン



レーザーラマン分光装置 (ディロール社)

た。もちろん、コンピューター部分は何回かバージョンアップしている。近々に NIH からのグラントで、ニューマシーンが入ると笑顔で話していたのが印象的であった。実際は、ディロール社 (フランス) の最新型のモデルは、私の帰国直前に設置が完了したので、残念ながら操作する機会に恵まれなかった。他の主な施設の概要を説明して頂いたあと、ジョアンの教授室で第1回目のディスカッションを行なった。議題は、私の愛称についてであった。アメリカでは、教授であろうが、所長であろうが、ファーストネームで呼び合う場合が多い。私の場合、ミッキーでもミッチーでも、またヨシでもよかったが、発音しやすいということで Mino に決まり、翌日、日本通のある教授に San 付けで呼ばれたことから、以後、Mino-San と、日本と同じように呼ばれることとなった。

生活

最初の1ヶ月は、車や、不足の家具類、TV、ビデオなどの電化製品を揃えたり、週末にガレージ・セールを廻り、細々したものを安く入手するのに奔走しな

がら、アットという間に過ぎてしまった。

9月からは、子供達の学校が始まった。娘 (当時5才) は Kindergarten (幼稚園年長に相当)、息子 (当時3才) は nursery school (保育所に相当) へ通い始めた。もちろん、彼らは英語を理解できない。そしてクラスには他に日本人はいなかった。予想通り、子供達は行くのを嫌がり、毎朝泣いていた。息子は、そこに通う義務があったわけではなかったのに、1ヶ月後でも、この調子が続けば、やめさせようと考えていた。しかし、あたかも微生物のような順能性をもつ子供達は、10月になると、月曜日の朝しか泣かないようになり、11月以降は毎日喜んで通うようになったのである。

子供達と妻との毎日は、大変忙がしそうであった。妻は、毎朝、娘をスクールバスに間に合うよう送り出し、息子と私を車で送り、その後、ポートランド・コミュニティ・カレッジ (PCC と略す) で昼まで英会話を学んでいたし、子供達は、学校以外にスイミング、バレー、体操等を習っていた。せっかくアメリカに来たのだから、何でもやってみようという妻や私の考え方もさることながら、これらのことが日本に比べて格安の費用で行なえることが大きな理由の一つである。また妻の通う PCC も英語を母国語としない人達の社会進出を助けるために、無料で開放されており、日本の社会福祉の遅れを実感した。

異国で、日本とは全く違う文化に触れるのも興味深いものである。子供達を一番喜ばせたのは、ハロウィンのパーティであった。その日、子供たちは変装して登校する。変装して出勤する大人もいるようだ。事実、バス停で待っている魔女をその朝、何人かみかけた。夕方、OGCのスタッフの家でも、パーティが開かれた。もちろん、ポットラック (1人1品持ち寄り制) である。私達は、巻き寿司と肉のタタキを持参し、大変喜ばれた。ホストとホステスは、自家製のビール



愛車ポンティアック (フェニックス) とアパート

を提供し、彼らは、ビール瓶の扮装をしていた。ゲストもそれぞれ扮装を凝らしてくる。カエルに変装した人は、鳴き声を録音したテープを持参するという徹底ぶり、子供たちを喜ばせた。

ハローウィンが近づくと、町には、至る所で、色々のコスチュームそしてカボチャ、菓子を入れるバケツが売り出される。ある日、私達は、とても素敵なスーパーマンのコスチュームを見つけ、息子に強く勧めた。しかし、彼はスーパーマンが何たるか知らなかった。アメリカ帰りで、スーパーマンを知らないようでは困ると思い、早速、レンタルビデオでスーパーマンⅡをみせた。次の日から、彼はすっかり気に入って、赤いマントをつけ、1週間、室の中で飛び廻っていた。

4月19日のイースターには、研究室の博士コースの学生カメラ（ネパール人）の親戚の家へお邪魔をした。多勢の親類が遠方から集まっていた。庭に隠されてあるかわいい絵のかかれた卵を探す競争に興じる子供たち、バーベキューとワインで久しぶりに親類と話のはずむ大人達、それに付けても、広い家と広い庭、特別に裕福というわけでもないが、テニスコートが2



ハローウィンのパーティー



ハローウィンのパーティー



ハローウィンの日の幼稚園



仮装して菓子をもらいに各家をまわる子供たち



カメラの家族と過ごすイースター

面取れる程の芝生である。羨ましい限りである。

Vacation と学会

留学生活の中で、一番の楽しみは、Vacation を利用して、各地を旅することであった。ディズニーランドへ連れて行くという条件で、子供達にアメリカ行きを納得させた手前、最初に、ディズニーランド行きを



卵探しの競争に興ずる子供達

計画した。ディズニーランド（ロス近郊）の他にディズニーワールド（フロリダ）があるのを初めて知った私達は、トラベルガイドを引っぱり出した。そこには、両者はほとんど同じなので、両方へ行く必要は全くないと書いてあったが、東京ディズニーランドを含めた世界三大ディズニーランドを制覇して、喜んでいる人もいるともあった。私達は、迷わず後者を選び12月の早朝、ポートランド空港よりモルモン教のメッカであるソルト・レーク・シティ、“風と共に去りぬ”の舞台、アトランタ等を経由し、夕暮れのオランドー空港（フロリダ）に着いた。（時差は3時間）。シーズン・オフとはいえ、往復1人\$198の運賃は、日本では考えられない程の安価である。オランドーでは一室（2ベッド）\$35のモーテルに泊まったが、プールもあり、私達には十分であった。4日後、レンタカーでケープケネディー宇宙センターを経由して、一路、マイアミへ。12月の末、大西洋で泳ぐ気分は壮快であった。

この他、アムトラック（鉄道）でサンフランシスコまでの片道17時間の列車旅行、ラスベガス経由で、木の葉のように揺れる小型飛行機で行ったグランドキャニオン、そこでは、息子が発熱し、Villeggeの救急病院で\$100/時間の診察料を請求されたこと、帰路、霧のため、サンフランシスコ空港への着陸が遅くなり、



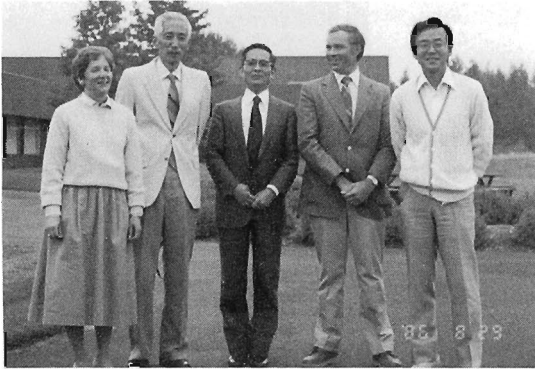
人気もののプルートと
（ディズニーワールド、エプコット館、フロリダ）

ポートランド行き最終に乗り遅れ、しかたなく、空港のソファで寝たことなど、今となってはなつかしく思い出される。さらに、カナディアン・ロッキー、カリフォルニア、セントラルオレゴン等それぞれに想い出があるが、紙面の都合で省略させて頂く。

Vacation 以外にも、各地を訪ずれる機会があった。9月に、ユージーンのアレゴン大学で開かれた国際ラマン学会では、世界各地から著名な研究者が集まっていた。日本から出席した教授方の内、何人かは OGC を訪れ、私たちの研究室を見学された。

続いて、11月には、ワシントン州最大の都市シアトルを訪れることができた。トーマスの友人、H. Gray 教授（Cal. Tech）がポーリング賞を受賞し、その受賞式に、我々の研究室の多くが出席したからである。“無機反応機構”の著者として知られている Basolo と Peason、そしてその分野で初めてノーベル賞も受賞した H. Taube の講演に引き続き、Gray 教授の“long-range electron transfer in heme proteins”というタイトルの記念講演が、ポーリング博士の目の前で行われた。

その夕方開かれた夕食会では、Basolo 教授から、Gray 教授の生い立ち等がスライドを用いて詳細に紹介された。一方、最後に、「世界で全く紹介の必要のない人物を紹介します」と簡単に紹介されて、立ったボ



国際ラマン学会で OGC を訪れた教授たち（中庭にて）
（左からジョアン，中本教授，窪井教授，トーマス）

ーリング博士はもう90才に近いと思われるが、まだまだお元気な様子で Nature に最後に投稿したときの説明をされていた。この人の論文を誰がレフェリーするのだろうかと考えながら、同席するだけで光栄な、貴重な時間を過ごすことができた。

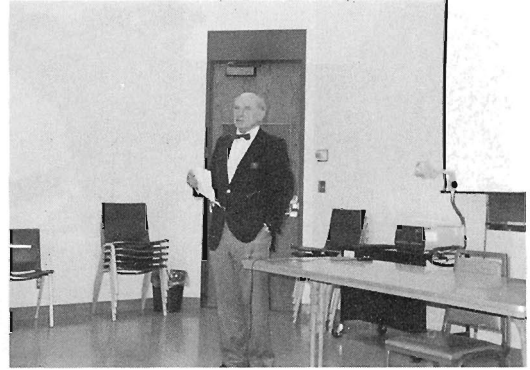
OGC と研究生活

留学先の OGC は、私立の大学院学生を対象とした教育研究機関である。歴史も浅く、特別りっぱな装置があるとは思えなかったが、スタッフの研究レベルは高いようであった。

アメリカでは、世界的に有名な研究者が新しい成果を引きさげ、各地でセミナーを開く。OGC でも頻繁にセミナーが開かれたが、私にとって最も興味深かったのは、ポートランドのオレゴン大学医学部で開かれた、微生物シデロホア（鉄輸送体：鉄不足時に分泌される強力な鉄キレーター）の権威、Joe Neilands のセミナーであった。セミナーの前日、OGC を訪れた彼に、二、三質問したが、「植物の鉄取り込みはあなた達の仕事」と逆にはっぱをかけられてしまった。当日のセミナーは、微生物の鉄取り込みの調節機構を遺伝子レベルで考察したものであった。「植物の鉄取り込み機構は、日本人グループが研究しているが、その調節のしくみの解明は、困難であろう」と、ほんの10秒程しか、ムギネ酸の仕事に関して触れなかったが、このセミナーは私に強い感銘を与えた。

さて、最後に、私のボス、ジョアンとトーマス、そして私の研究について、残された紙面をさきたいと思います。

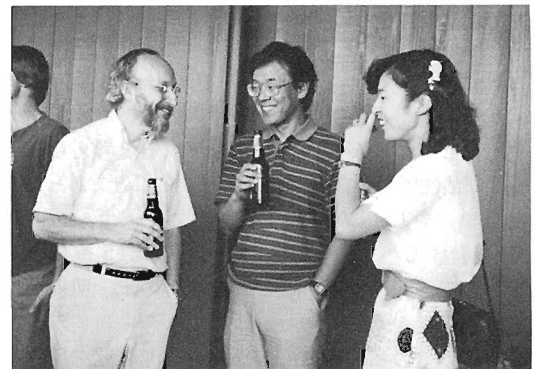
元々、ジョアンは生化学者、トーマスは無機化学者であった。二人は結婚して、現在、生物無機化学の分野で活躍している。興味を中心は、鉄含有生体分子の活性部位の構造を共鳴ラマン分光法で解明することで



ジョー・ニーランド Joe Neilands のセミナー風景
（オレゴン大学医学部にて）

ある。共鳴ラマン分光法は、有色物質に、吸収極大付近の波長をもつレーザー光線を照射した場合、その発色団からのラマン散乱だけが数千倍増大することを利用しており、金属やその他の発色団を含むタンパクの活性部位の構造を検討するのに有力な手段である。二人は、ヘムエリトリン（ミミズの仲間の酸素運搬の鉄含有タンパク）やヘモシアニン（カニ、エビ等の酸素運搬の銅タンパク）における酸素分子の結合様式をラマンで予測したことで有名である。また、ジョアンは藻類のシデロホアについて興味を持っており、私達の植物シデロホア（ムギネ酸）の研究に特に理解を示してくれた。

アメリカでの私の研究のテーマは、植物中の鉄一硫黄タンパクの一種フェレドキシンの活性中心における水素結合に関するものであった。試料は、私自身の希望で、自分で調整した。精製が進むに連れ、フェレドキシンのロゼワインの色が確認できるようになったときなどは、ウキウキした気分で、コールドルームの中のカラムの様子を見るために、夜中でも、愛車ボンテアック（フェニックス）をとばして行ったものである。精製したフェレドキシンについては、Displex と



going-away party での Mike Gold 教授



研究室の仲間

呼ぶ低温装置を利用することで、満足できるラマンスペクトルをとることができた。

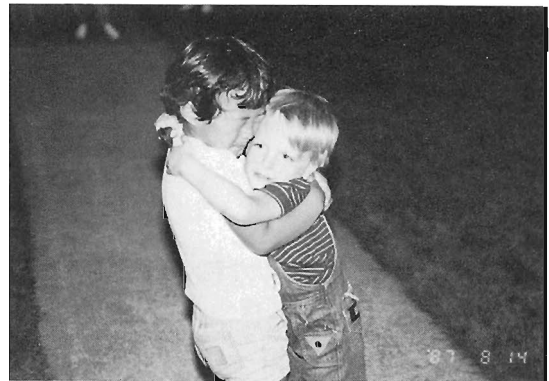
フレドキシンの仕事が一段落し、ほっとするのもつかの間、次の仕事待ちうけていた。同センター内のMike Gold教授（マイクと略す）との共同研究で、リグニンを分解する酵素、マンガンヘルオキシダーゼについての研究が始まったのである。

オレゴンは林業が盛んで、当然、パルプも代表的な産業の一つである。ところで、リグニンは、木材の主要成分（20~30%）で、地球の資源として、セルローズに次いで多量に存在している。（植物実習で、木化反応により鮮紅色に染まった木部や石細胞などを想い出す人も多いと思う。）もちろん、植物自体にとっては、リグニンは植物体を強固に保つという目的などのために、不可欠であるにちがいない。しかし、セルローズだけを取り出したいパルプ会社にとっては邪魔物以外の何ものでもない。もし、リグニンを暖かな条件下で分解できれば、パルプ化も容易になるし、今まで捨てていたリグニンを新しい資源として利用する道も開けるわけである。リグニンは安定な物質で、如何なる微生物でも分解することは困難である。しかし、この仲間には、その能力をもつものがある。マイクは、木材腐朽菌の一種から、二、三のリグニン分解酵素を発見しており、私の仕事はその中の一種、Mn(II)をMn(III)に酸化するマンガンヘルオキシダーゼ（Mn(III)がリグニンを分解すると考えられている）の活性中心の構造を明らかにすることであった。共鳴ラマンやESRの検討の結果、プロトポルフィリンIXを有するヘム酵素で、ヒスチジンが5番目の配位子として、関与していることを苦労の末、明らかにすることができた。

アメリカでの私の研究は、ラマン分光装置を用いるものであった。現在、本学にはその装置がなく、留学



帰国前日の記念撮影
(向いのアパートに住むスコット一家と)



別れを惜しむ息子

で学んだものを、早速、活かせないのは残念ですが、汎用性の高い装置なので、近い将来、本学に導入され、広い分野での研究に大いに役立つようになるものと思われます。

See you again

最後の4枚の写真は、帰国直前に開かれたお別れ会等のものです。

1年間の留学生生活を終え、たくさんの思い出と共に8月帰国の途につきました。私だけでなく、家族にとっても忘れられない1年間で、限られた1年であったからこそ、充実したものでした。子供達は今でもアメリカの学校のことを思い出し、「もう一度、行きたいね」と話します。オレゴンは、第二の故郷のようで、機会があればこの地をもう一度踏みたいと思っています。

最後に、このような素晴らしい機会を与えて頂いた藤田栄一学長並びに太田長世教授を初め、諸先生方から厚くお礼申し上げます。この貴重な経験を活かし、今後の教育、研究を発展すべく、努力する所存です。

学位授与

薬学博士（昭和63年2月19日）
 第7987号 薬品物理化学 土井光暢
 エンケファリン及びその誘導体に関する構造化学的
 研究（大阪大学より）

薬学博士（昭和63年3月31日）
 論博第1号 衛生化学 藤本陽子
 プロスタグランジンの合成に対する脂質過酸化の影
 響に関する研究（本学より）

薬学修士（昭和63年3月19日）
 修第73号 生薬学 大井田文雄
 ムギネ酸類の光学異性体の合成と植物における鉄取
 り込み活性に関する研究

修第74号 生薬学 岡 雅仁
 キキョウ根からのイヌリン型オリゴ糖の単離とその
 構造化学に関する研究

修第75号 薬剤学 永易 篤
 ポリビニルアルコールハイドロゲルを用いた降圧薬
 の持効性経皮吸収製剤の開発に関する研究

修第76号 薬理学 市原敏夫
 ラット腎機能並びにレニン遊離におよぼす Bay K
 8644 の影響

修第77号 薬理学 景山正明
 イヌ腎機能におよぼすニソルジピンの影響

修第78号 薬理学 西井幹雄
 プロカリクレインの活性化に関与する腎内酵素の精
 製とその諸性質に関する研究

修第79号 薬化学 岸 浩司
 海藻の光力学的作用ポルフィリンについて

修第80号 生薬学 前田 薫
 Cassia garrettiana CRAIB. のポリフェノール成分に関
 する研究

修第81号 衛生化学 西岡和幸
 ウサギ腎髄質切片のプロスタグランジン合成におけ
 るアラキドン酸供給機構に関する研究

修第82号 薬品製造学 山東一孔
 シアノヒドリンホスフェートのアシルアニオン等価
 体としての可能性に関する研究

修第83号 生化学 尼崎智佳
 Bacillus cereus 菌由来ホスホリパーゼ C の酵素反

応速度論

修第84号 薬品物理化学 上田仁司
 mRNA 5' 末端キャップ構造のコンホメーション及
 びトリプトファン誘導体との相互作用研究

国家試験の結果について

本年度春に施行された薬剤師ならびに臨床検査技師
 の国家試験の成績は次の通りであった。

◎薬剤師国家試験

第73回(63. 4. 2～4. 3 施行, 63. 4. 28発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
257名 (232名)	226名 (213名)	87.94% (91.81%)	84.35% (88.17%)

※括弧内は、新卒者（昭和63年3月卒業）の数値を
 示す。

参考として過去5年間の春の薬剤師国家試験の成績
 を記した。

薬剤師国家試験合格状況（春・過去5年）

年（回）	総 合（%）	新 卒（%）	その他（%）
59（66）	79.68	81.05	66.67
	73.77	78.07	41.21
60（68）	84.13	87.59	61.36
	80.53	85.32	48.65
61（70）	67.87	71.95	35.48
	64.86	69.85	31.52
62（72）	91.51	96.50	46.88
	91.17	94.71	57.70
63（73）	87.94	91.81	52.00
	86.65	89.72	51.19

※上段は本学、下段は私立薬系大の平均の数値を示す。

過去5年間の薬剤師国家試験（春期）の合格状況は、私立薬系大の平均を上回る結果が出ている。新卒者の合格率のアップが本学の今後の課題である。

◎臨床検査技師国家試験

第34回(63. 3. 13施行, 63. 4. 28発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
7名 (3名)	3名 (2名)	42.9% (66.7%)	49.4%

※括弧内は、新卒者（昭和63年3月卒業）の数値を示す。

人事異動

就職部長発令 (63. 4. 1)

沼田 教 (教授)

図書館長発令 (63. 4. 1)

森本 史郎 (教授)

寮監発令 (63. 4. 1)

碓井 信二 (教授)

研究委員長発令 (63. 4. 1)

井上 正敏 (教授)

医療薬学実習担当主任発令 (63. 4. 1)

中元安雄 (助教授)

教授発令 (63. 4. 1)

保坂 康弘 (第二微生物学教室・新採用)

助教授発令 (63. 4. 1)

松村 瑛子 (生物学)

有本 正生 (第二薬化学教室)

講師発令 (63. 4. 1)

春沢 信哉 (第一薬品製造学教室)

助手発令 (63. 4. 1)

井尻 温代 (化学第一教室)

植野 容子 (第一放射薬品学教室)

秦松 明子 (R1)

团上美穂代 (MASS)

畠山 容子 (第二薬剤学教室)

副手発令 (63. 4. 1)

亀山 悦子 (第二薬理学教室・新採用)

後藤亜也子 (第二衛生化学教室・新採用)

堤 あゆみ (第一薬剤学教室・新採用)

宮本多美江 (第一薬化学教室・新採用)

森本 純子 (第二放射薬品学教室・新採用)

山本英倫子 (第二生化学教室・新採用)

主任発令 (63. 4. 1)

松尾 真充 (教務課)

藤田 純生 (庶務課)

用務員発令 (63. 4. 1)

岩元 俱江 (新採用)

嘱託発令 (63. 4. 1)

太田 長世 (教授・第一生薬学教室)

吉田 嶺吉 (教授・数学)

佐原 都 (用務員)

退任 (63. 3. 31)

森坂 勝昭 教授・就職部長
(任期满了につき)

水谷 泰久 教授・図書館長
(任期满了につき)

森下 利明 教授・寮監
(任期满了につき)

森 逸男 教授・研究委員長
(任期满了につき)

退職 (63. 3. 31)

吉田 嶺吉 教授 (数学)

中野さち子 助手 (第二薬理学教室)

戸奈 優子 助手 (第二衛生化学教室)

齊藤友希子 助手 (第一薬剤学教室)

澤田ゆかり 助手 (第二放射薬品学教室)

藤木 綾子 副手 (第一薬化学教室)

佐原 都 (用務員)

解囃 (63. 3. 31)

川西マサ子 (用務員)

昭和63年度

各部・各委員会・委員一覧

◎は各部署の長

(昭和63年4月1日現在)

教務部

中元 安雄 (助教授)

学生部

稲森 善彦 (助教授)

松村 瑛子 (助教授)

就職部

千熊 正彦 (助教授)

図書館

石田 寿昌 (助教授)

学生寮

望月伸三郎 (教授)

濱中久美子 (講師)

薬用植物園

太田 長世 (教授)

三野 芳紀 (講師)

実験動物センター

森坂 勝昭 (教授)

森本 史郎 (教授)

玄番 宗一 (助教授)

中元 安雄 (助教授)

広報委員会

松村 瑛子 (助教授)

森本 武司 (庶務課長)

研究委員会

玄番 宗一 (助教授)

排水処理委員会

太田 長世 (教授)

曾根 節子 (助教授)

◎小澤 貢 (教授)

藤田 芳一 (講師)

◎望月伸三郎 (教授)

石田 寿昌 (助教授)

◎沼田 敦 (教授)

松村 瑛子 (助教授)

◎森本 史郎 (教授)

坂田 勝治 (助教授)

◎碓井 信二 (教授)

馬場きみ江 (助教授)

杉田 勝美 (資料室長)

◎小澤 貢 (教授)

馬場きみ江 (助教授)

◎藤田 直 (教授)

酒井 清 (教授)

池田 潔 (教授)

稲森 善彦 (助教授)

安田 正秀 (講師)

◎森本 史郎 (教授)

藤田 芳一 (講師)

杉田 勝美 (資料室長)

◎井上 正敏 (教授)

馬場きみ江 (助教授)

◎石田 寿昌 (助教授)

井上 正敏 (教授)

R I 運営委員会

森坂 勝昭 (教授)

井上 正敏 (教授)

沼田 敦 (教授)

木村捷二郎 (助教授)

◎田中 千秋 (教授)

酒井 清 (教授)

森本 史郎 (教授)

玄番 宗一 (助教授)

総務委員会

山口 秀夫 (教授)

堀田 輝明 (教授)

水谷 泰久 (教授)

小澤 貢 (教授)

◎藤田 榮一 (学長)

森坂 勝昭 (教授)

森本 史郎 (教授)

沼田 敦 (教授)

望月伸三郎 (教授)

施設委員会

山口 秀夫 (教授)

堀田 輝明 (教授)

水谷 泰久 (教授)

沼田 敦 (教授)

曾根 節子 (助教授)

◎藤田 榮一 (学長)

森坂 勝昭 (教授)

井上 正敏 (教授)

田中 千秋 (教授)

小澤 貢 (教授)

大学史資料委員会

太田 長世 (教授)

加藤 義春 (助教授)

吉野 幸夫 (事務局長)

杉田 勝美 (資料室長)

◎曾根 節子 (助教授)

森下 利明 (教授)

馬場きみ江 (助教授)

森本 武司 (庶務課長)

公開教育講座委員会

井上 正敏 (教授)

小澤 貢 (教授)

◎藤田 榮一 (学長)

小延 鑑一 (教授)



昭和63年度前期行事予定

{63年}

4月2日(土)	第73回薬剤師国家試験
3日(日)	
8日(金)	入学式(学部・大学院)
9日(土)	新入生ガイダンス
11日(月)	新入生健康診断, アドバイザー面談
12日(火)	前期授業開始
18日(月)	レントゲン検診(2~4年次生・院 生・教職員の女子)
19日(火)	レントゲン検診(同上の男子)
23日(土)	新入生歓迎会(学友会卯月祭)

5月9日(月)	創立記念日(休業日)
11日(水)	健康診断(2~4年次生・院生の女 子)
12日(木)	健康診断(同上の男子)
7月11日(月)	夏季休業
9月7日(水)	
9月8日(木)	授業再開
14日(水)	前期授業終了
16日(金)	前期定期試験(1~4年次生)
28日(水)	
29日(木)	臨時休講
30日(金)	

奨学生状況 (昭和63年4月1日現在)

1. 日本育英会

	1年	2年	3年	4年	学部計	修士	博士	総計
第1種	23	27	37	34	121	6	1	212
第2種	23	24	28	9	84	—		
計	46	51	65	43	205	7		

(学部) (円/月)

		59~61年度	62年度以降
第1種	自宅通学	31,000	35,000
第2種	自宅外通学	41,000	45,000

(大学院) (円/月)

第1種	自宅・自宅外	修士課程	69,000
		博士課程	80,000

第1種	無利息貸与	卒業後長期 (10~20年) 分割返還
第2種	利息付貸与 (年利率3%)	

2. その他の育英会・奨学会

	1年	2年	3年	4年	院 生	計	月額 (円)	給* 貸
本学父兄 会奨学会	1	4	3	1	3	12	20,000	給
森下仁丹 奨学会			1	1		2	30,000	給
小野奨学 会	1		1			2	20,000	給
佐藤奨学 会		1				1	17,000	給
南都育英 会			1			1	41,000	給・ 貸
大阪府育 英会	7	1	5	5		18	17,000 ~ 19,000	貸
東大阪市 育英会		2	1			3	14,000	貸
岡山県育 英会				1		1	22,000	貸
愛媛県奨 学会			1			1	22,000	貸
計	9	8	13	8	3	41		

*給は給付で返還不要

*貸は貸与で卒業後長期分割返還

教員研究業績一覧(1987年)

(1987.1.1~12.31)

1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
森坂勝昭, 他	第5章 個々の製剤	総合薬剤学第2版 医歯薬出版株式会社
松永春洋, 他		薬品化学改訂第4版 1987年3月 25日発行 南江堂
森本史郎, 松村靖夫	ループ利尿薬	日本臨床1987年夏期増刊 1180
森 逸男, 他	第3章 緩塩基中和	わかりやすい分析化学入門(広川 書店)
小澤 貢, 他		薬用天然物化学 広川書店 1987, 8, 15 (奥田拓男編)
沼田 敦, 他	Alkaloids from Ants and Other Insects	The Alkaloids (A. Brossi, ed.), Vol. 31, p. 193. Academic Press, INC., New York, 1987.
藤田 直	プロスタグランジン合成と活性酸素	フリーラジカルの臨床, 1, 9 (1987)(日本医学館)
池田 潔, 他	ホスホリパーゼA ₂ の触媒機能の分子論	蛋白質 核酸 酵素, 32 (12), 1422 (1987)
石田寿昌, 土井光暢, 井上正敏, 他	Molecular Dynamics Simulations of Opioid Peptides and Biological Implications	Fifth Conversation in Biomolecular Stereodynamics (R. H. Sarma Ed) State Univ. New York, 1987 p. 342
千熊正彦, 他	第3章第4節 制がん白金錯体	生物無機化学 p. 119 (広川書店)
千熊正彦, 他	第一章 教育, 研修, 病院薬学 共同研究のすすめ	病院薬局と医療を取巻く諸問題 p.22 (薬事新報社)
碓井信二	ハンス・カロッサの講演『現代におけるゲーテの影響』に対するユルフ・シュネルの批判について	ばいでいあ, 11, 69 (1987)
坂田勝治	"CHEMISTRY"の語源と用法 —「中国語シルクロード経出説」について	ばいでいあ, 11, 37 (1987)
濱中久美子	le Fortの「愛」についての模索(IV)	ばいでいあ, 11, 55 (1987)

2. 一般学術論文

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤田榮一, 他	Regioselective Hydroxylation in the C Ring of <i>ent</i> -Kaurene: Syntheses of <i>ent</i> -11 α -Hydroxykaurene and <i>ent</i> -11 α -Hydroxykauren-15-one	Bull. Inst. Chem. Res., Kyoto Univ., 65, 129 (1987)
藤田榮一, 他	A New Finding in the Dieckmann Type Annulation of a Chiral Half-Thiol Diester Having Latent σ -Symmetry	Chemistry Lett., 1987(9), 1861
藤田榮一, 他	Effect of oridonin, a <i>Rabdosia</i> diterpenoid, on radiosensitization with misonidazole	Experientia, 43, 1221 (1987)
藤田榮一, 他	Synthesis of (+)-Carbacyclin Based on a New Chiral Inducing Procedure	J. Chem. Soc., Chem. Commun., 1987(4), 267
藤田榮一, 他	Chiral Synthesis of a Useful Intermediate for (+)-Isocarbacyclin	J. Chem. Soc., Chem. Commun., 1987(4), 269
藤田榮一, 他	sp ² -Carbon-Iodine Bond Cleavage of Alkynyl (phenyl) iodonium Salts. Novel Synthesis of (Alkylethynyl) triphenylphosphonium Salts	J. Chem. Soc., Chem. Commun., 1987(2), 1708
藤田榮一, 他	Synthesis of Parabactin Analogues and Formation of Transition Metal Complexes of Parabactin and Related Compounds	J. Chem. Soc., Perkin Trans. II, 1987, 1543
藤田榮一, 他	メチルセレン基によって促進されるケテン-イミン環化反応を活用するベナム型 β -ラクタムの簡便合成	日化, 1987(7), 1447
有本正生, 山口秀夫, 藤田榮一他	Iodosylbenzene-Trimethylsilyl Azide-Boron Trifluoride Etherate: A Highly Efficient System for Direct Synthesis of Allyl Azides from Allylsilanes	Tetrahedron Lett., 28, 6289 (1987)
田之口真理子, 有本正生, 雑賀英之, 山口秀夫	Studies on the Constituents of the Seeds of <i>Hernandia ovigera</i> L. VI. Isolation and Structural Determination of Three Lignans	Chem. Pharm. Bull., 35, 4162 (1987).
沼田 敦, 難波江倫子, 山本恭子, 山本榮子, 松村瑛子, 川野タツ, 他	Assignment of Quaternary Carbons in Aromatic Compounds by Long-range Heteronuclear Shift Correlated 2D-NMR Spectroscopy and Its Application to Acteoside	Agric. Biol. Chem., 51, 1199 (1987)
沼田 敦, 北島昭彦, 勝野孝子, 山本恭子, 長浜奈津, 高橋千能, 藤木陵子, 難波江倫子	An Antifeedant for the Yellow Butterfly Larvae in <i>Camellia japonica</i> : A Revised Structure of Camellidin II	Chem. Pharm. Bull., 35, 3948 (1987).
米田龍司, 春沢信哉, 栗原拓史	A New and Facile Synthesis of 2-Alkenenitriles using 3-Buten-2-one Cyanohydrin Diethyl Phosphate: Application to (+)-(-)-Nuciferol Synthesis	Chem. Pharm. Bull., 35, 913 (1987)
米田龍司, 久川秀樹, 春沢信哉, 栗原拓史	A Simple One-Pot Synthesis of tert-Butyldimethylsilyl-Protected Cyanohydrins	Chem. Pharm. Bull., 35, 3850 (1987)
栗原拓史, 山本一孔, 春沢信哉, 米田龍司	Application of Cyanophosphates in Organic Synthesis. Reactivity of α -Cyano- α -diethylphosphonoxy Anions	Chem. Pharm. Bull., 35, 4777 (1987)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 寺田達也, 春沢信哉, 米田龍司	Synthetic Studies of (±)- Lysergic Acid and Related Compounds	Chem. Pharm. Bull., 35, 4793 (1987)
栗原拓史, 寺田達也, 松原義隆, 米田龍司	A New Synthetic Method of 6-Aryl-or Vinyl-substituted 2-Oxotetrahydro-1,3-oxazines	Heterocycles, 26, 641 (1987)
栗原拓史, 春沢信哉, 平井淳一, 米田龍司	Regiospecific Arylation of 1,4-Benzoquinone Cyanohydrin Phosphate: Synthesis of 3-Aryl-4-hydroxybenzonitriles	J. Chem. Soc. Perkin Trans. I. 1987, 1771
栗原拓史, 藤本年朗, 春沢信哉, 米田龍司	Simple N-Alkylation and N-Acylation of 3-Acetylidole and 3-Indolecarbaldehyde	Synthesis, 1987, 396
栗原拓史, 藤本年朗, 春沢信哉, 米田龍司	A Simple One-Pot Synthesis of Acylated Cyanohydrins of 3-Indolecarbaldehydes	Synthesis, 1987, 397
米田龍司, 山東一孔, 春沢信哉, 栗原拓史	A New Synthesis of Polysubstituted Cyclopropanes	Synthetic Commun., 17, 921 (1987)
春沢信哉, 米田龍司, 大森幸恵, 栗原拓史	Non-Aqueous Cyanation of Halides Using Lithium cyanide	Tetrahedron Lett., 28, 4189 (1987)
赤木昌夫, 尾崎和子	The Synthesis of 5- and 7-Acetylidole Derivatives. I. The Photochemical Rearrangement of 1-Acetylidole	Heterocycles, 26, 61 (1987)
馬場きみ江, 竹内一男, 土井光暢, 小澤 貢	Chemical Studies on the Constituents of the Thymelaeaceous Plants. II. Structure of a Novel Spiro-Biflavonoid, Daphnodorin C, from <i>Daphne odora</i> Thunb.	Chem. Pharm. Bull., 35(5), 1853 (1987)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Effects of an Active Substance Isolated from the Roots of <i>Angelica shikokiana</i> on Leukotriene and Monohydroxycosatetraenoic Acid Biosyntheses in Human Polymorphonuclear Leukocytes	Planta Medica, 53(6), 521 (1987)
馬場きみ江, 多幡祐子, 小澤 貢, 他	Studies on Chinese Traditional Medicine "Fang-Feng" (I), Structures and Physiological Activities of Polyacetylene Compounds from <i>Saposhnikovia Radix</i>	生薬学雑誌, 41(3), 189, (1987)
小澤 貢, 他	超臨界流体抽出の生薬、植物成分への応用 (第1報) 蛇床子成分の抽出に及ぼす圧力、温度、時間、エントレーナーの影響	薬学雑誌, 107(5), 367 (1987)
馬場きみ江, 竹内一男, 多幡祐子, 谷口雅彦, 小澤 貢	ジンチョウゲ科植物成分の化学的研究 (第4報) 芫花根の新スピロフラボノイド Genkwanol A の構造	薬学雑誌, 107(7), 525 (1987)
馬場きみ江, 竹内一男, 小澤 貢	ジンチョウゲ科植物成分の化学的研究 (第5報) ジンチョウゲの根から得られる新ピフラボノイド Daphnodorin D の構造	薬学雑誌, 107(11), 863 (1987)
三野芳紀, 他	Hydrogen bonding of sulfur ligands in blue copper and iron-sulfur proteins: Detection by resonance Raman spectroscopy	Biochemistry, 26, 8059 (1987)
田中麗子, 松岡美奈子, 松永春洋	3β-Hydroxyhexanordammaran-20-one from <i>Euphorbia supina</i>	Phytochemistry, 26(12), 3365 (1987)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
尹 康子, 土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏	Structure of <i>tert</i> -Butoxycarbonyl-alanyl-asparaginyloproline Benzyl Ester	Acta Crystallogr. Sect.C C 43, 770 (1987)
石田寿昌, 井上正敏, 馬場きみ江, 小澤 眞, 他	Absolute Configuration and Structure of Carminic Acid Existing as the Potassium Salt in <i>Dactylopius cacti</i> L.	Acta Crystallogr. Sect.C, C 43, 1541 (1987)
石田寿昌, 戸倉由子, 島本真理, 土井光暢, 井上正敏	Crystal Structure of (Uracil-1-ylethyl) (adenin-9-ylethyl) - tryptophan Dipeptide : An Interaction Model between Nucleic Acid Base and Aromatic Amino Acid	Chem. Pharm. Bull., 35, 1691 (1987)
石田寿昌, 井上正敏, 他	A New Iridoid Glucoside, Nepetariaside, from <i>Nepeta cataria</i>	Chem. Pharm. Bull., 35, 2533 (1987)
土井光暢, 田中正幸, 石田寿昌, 井上正敏	The three-dimensional similarity between a dimeric antiparallel extended structure and a β -turn folded form of enkephalin	FEBS Lett., 213, 265 (1987)
石田寿昌, 井上正敏	The Solid and Solution Conformations of (\pm)-Corycavine	Helv. Chim. Acta, 70, 1482(1987)
土井光暢, 田中正幸, 石田寿昌, 井上正敏	Crystal Structures of [Met ⁵] and [(4-Bromo) Phe ⁴ , Met ⁵] - Enkephalins : Formation of a Dimeric Antiparallel β -Structure	J. Biochem. (Tokyo), 101, 485(1987)
石田寿昌, 井上正敏, 他	X-Ray Crystal Structure of Ascidiacyclamide, a Cytotoxic Cyclic Peptide from Ascidian	J. Chem. Soc. Chem. Commun., 1987, 370
上市勝久, 土井光暢, 難波江倫子, 石田寿昌, 井上正敏	Structural Studies of the Interaction between Indole Derivatives and Biologically Important Aromatic Compounds. Part 19. Effect of Base Methylation on the Ring-stacking Interaction between Tryptophan and Guanine Derivatives : a Nuclear Magnetic Resonance Investigation	J. Chem. Soc. Perkin Trans 2, 1987, 1739
石田寿昌, 尹 康子, 柴田 恵, 土井光暢, 井上正敏	On the Structure-Activity Relationship of Histamine H ₂ -Receptor Antagonists Based on the X Ray Crystal Structures and ¹ H-NMR Spectra of Amidine Derivatives	Mol. Pharmacol., 31, 410 (1987)
石田寿昌, 他	Structure of D-ribulose 1,5-bisphosphate carboxylase/oxygenase from <i>Alcaligenes eutrophus</i> H16	Nature, 325, 730(1987)
井上正敏, 土井光暢, 他	Absolute structure of gibboside, an iridoid glucoside from <i>Patrinia gibbose</i>	Phytochemistry, 26, 561(1987)
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 田中 毅, 中橋義弘, 吉井あゆみ	Application of Xanthene Derivatives in Analytical Chemistry Part LXV. The Spectrophotometric Determination of Vanadium with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein in the Presence of Cationic Surfactants	Anal. Lett., 20, 747 (1987)
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 越山陽三, 中橋義弘	Spectrophotometric Study of the Effect of Cationic Micelles on the Reaction between Gallein and Th(IV)	Anal. Lett., 20, 1567 (1987)
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 田中 毅, 矢野由佳里, 朝田真貴子	Improved Spectrophotometric Determinations of Cobalt-(II) and Nickel(II) with Zincon in the Surfactants Micellar	Bull. Chem. Soc. Jpn., 60, 3035(1987)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤田芳一, 森 逸男, 藤田絹子, 田中 毅	Application of <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalen-Iron (III) Complex to Determination of Pyridone Carboxylic Acids	Chem. Pharm. Bull., 35, 865(1987)
藤田芳一, 森 逸男, 藤田絹子, 中橋義弘, 田中 毅	Determination of Chlorpromazine, Thiamine, Lincomycin, Ofloxacin and Theophylline by Ternary Complex Formation with Eosin and Palladium (II)	Chem. Pharm. Bull., 35, 5004(1987)
藤田芳一, 森 逸男, 藤田絹子, 田中 毅	Simple and Highly Sensitive Spectrophotometric Determination of Citric Acid in Foods	衛生化学, 33, 56(1987)
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 田中 毅, 中橋義弘, 矢野佳子	Spectrophotometric Determination of Aluminum (III) Using the Color Reaction between <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalen and Aluminum(III) in the Presence of a Combination of Surfactants, and Its Application	衛生化学, 33, 385(1987)
藤田芳一, 森 逸男, 藤田絹子, 中橋義弘, 中西豊文	界面活性剤ミセル溶液中でのヒト血清アルブミンとハロゲンキサンテン系色素-金属錯体の呈色反応	薬学雑誌, 107, 640(1987)
千熊正彦, 他	Determination of Hydrogen Peroxide with Phenol and 4-Aminoantipyrine by the Use of a Resin Modified with Manganese tetrakis(sulphophenyl)porphine	Anal. Sci., 3 (4), 171 (1987)
千熊正彦, 他	Catalase-like Activity of Anion-exchange Resin Modified with Metalloporphyrin in the Oxidation of Methyl Alcohol and Its Application to the Determination of Hydrogen Peroxide	Bull. Chem. Soc. Japan, 60(6), 2227(1987)
千熊正彦, 他	Levels and Ages of Selenium and Metals in Sedimentary Cores of Ise Bay as Determined by 210-Pb Dating Technique	Bull. Environ. Contam. Toxicol., 39 (4), 214 (1987)
千熊正彦, 他	Separation and Determination of Fluoride Ion by Using Ion-exchange Resin Loaded with Alizarin Fluoride Blue	Chem. Pharm. Bull., 35 (9), 3734(1987)
千熊正彦, 他	Development of Functional Resins by Modification of Ion-exchange Resin and Their Application to Analytical Chemistry	Pure Appl. Chem., 59 (4), 573(1987)
千熊正彦, 他	Determination of Hydrogen Peroxide with <i>N,N</i> -Diethylamine and 4-Aminoantipyrine by use of an Anion-exchange Resin Modified with Manganese-tetrakis(sulphophenyl)porphine, as a Substitute for Peroxidase	Talanta, 34 (7), 667 (1987)
千熊正彦, 他	ビスムチオール-βスルホン酸担持イオン交換樹脂を充てんした微量フローカラムを用いるセレンの予備濃縮	分析化学, 36, 801(1987)
千熊正彦, 他	血清中テオフィリン濃度測定における Particle-enhanced Turbidimetric Inhibition Immunoassay	病院薬学, 13(6), 366 (1987)
大桃善朗, 他	Preparation of ⁶⁷ Ga-labeled antibodies using deferoxamine as a bifunctional chelate: an improved method	J. Immunol. Methods 104, 93(1987)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
木村捷二郎, 泰松明子, 他	放射線滅菌におけるアクリノール液剤の分解と抗菌力の変化	Radioisotopes, 36 (3), 108 (1987)
井上晴嗣, 大倉一人, 池田 潔, 他	Amino Acid Sequence of a Cytotoxin-Like Basic Protein with Low Cytotoxic Activity from the Venom of the Thailand Cobra <i>Naja naja siamensis</i> .	FEBS Lett., 218 (1), 17 (1987)
松村瑛子, 山本栄子, 川野タツ, 他	New Enzymatic Colorimetric Reactions of Benzoic Acid Derivatives with ABTS [2,2'-Azino-di-(3-ethylbenzothiazoline-6-sulfonic acid) diammonium salt] in the Presence of Laccase	Agric. Biol. Chem., 51 (10), 2743 (1987)
松村瑛子, 他	A New Screening Method for Microorganisms Which Produce Carboxypeptidases	Agric. Biol. Chem., 51 (10), 2863 (1987)
松村瑛子, 山本栄子, 他	New Enzymatic Colorimetric Analyses to Evaluate the Activities of Carboxypeptidase A and B	Agric. Biol. Chem., 51 (11), 3183 (1987)
松村瑛子, 他	A Chromogenic Oxidative Coupling Reaction of Laccase: Applications for Laccase and Angiotensin I Converting Enzyme Assay	Anal. Biochem., 166, 380 (1987)
辻坊 裕, 三宅義昭, 丸山興史, 稲森善彦	Hypotensive Compounds Isolated from Alcohol Extract of the Unossified Horn of Cervus elaphus var. xanthopygus Milne-Edwards (Rokujo). I. Isolation of Lysophosphatidyl Choline as a Hypotensive Principle and Structure-Activity Study of Related Compounds	Chem. Pharm. Bull., 35 (2), 654 (1987)
稲森善彦, 久保真百合, 辻坊 裕, 小川雅史, 他	The Ichthyotoxicity and Coronary Vasodilator Action of 3,3'-dihydroxy- α , β -diethylstilbene	Chem. Pharm. Bull., 35 (2), 887 (1987)
稲森善彦, 久保真百合, 辻坊 裕	The Mechanisms of Delayed Insecticidal Action of Streptothricin Antibiotics. III. The Mode of Delayed Insecticidal Action of Racemomycin-A	Chem. Pharm. Bull., 35 (4), 1509 (1987)
稲森善彦, 久保真百合, 小川雅史, 辻坊 裕	Biological Activities of 3,3'-Dihydroxy- α , β -diethylstilbene and Its Isomer, Diethylstilbestrol	Chem. Pharm. Bull., 35 (8), 3502 (1987)
稲森善彦, 竹内一男, 馬場きみ江, 小澤 貢	Antifungal and Insecticidal Activities of Daphnodorins A, B and C	Chem. Pharm. Bull., 35 (9) 3931 (1987)
岡田章子, 戸奈優子, 水谷泰久, 藤本陽子, 和田孝一郎, 金子美佳, 藤田 直	Formaldehyde の比色定量に用いる標準物質としての Hexamine と Formalin の比較検討 Effect of angiotensin-converting enzyme inhibitor YS980 on prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla slices	衛生化学, 33 (6), 442 (1987). Br. J. Pharmacol., 92 (3), 479 (1987)
藤田 直, 大谷 登, 相原ミドリ, 西岡和幸, 藤本陽子	Comparison of the effects of Fe ²⁺ and Cu ²⁺ on prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla slices	J. Pharm. Pharmacol., 39 (3), 230 (1987)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤本陽子, 西岡和幸, 大谷 登, 相原ミドリ, 藤田 直	Effect of pyridoxine on prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla slices	J. Pharm. Pharmacol., 39 (4), 314 (1987)
佐々木康人, 瀬尾留美, 高岡昌徳, 森本史郎, 他	Sulfur-containing acylamino acid. I. Synthesis and angiotensin I converting enzyme-inhibitory activities of sulfur-containing N-mercapto-alkanoyl amino acids	Chem. Pharm. Bull., 35, 2382 (1987)
佐々木康人, 森本史郎, 他	Sulfur-containing acylamino acid. II. Synthesis and angiotensin I converting enzyme-inhibitory activities of N-mercapto-alkanoyl-s-ethyl-L-cysteine	Chem. Pharm. Bull., 35, 2388 (1987)
松村靖夫, 瓜生斗支子, 慎山浩史, 佐々木康人, 森本史郎	Inhibitory effects of calcium channel agonists on renin release from rat kidney cortical slices	J. Pharmacol. Exp. Ther., 241, 1000 (1987)
森本史郎, 松村靖夫, 佐々木康人, 高桑寿雄, 景山正明	Diuretic effect induced by intrarenal infusion of pinacidil in anesthetized dogs	J. Pharmacol. Exp. Ther., 242, 1050 (1987)
慎山浩史, 松村靖夫, 佐々木康人, 市原敏夫, 森本史郎	Renin release in anesthetized rats is enhanced by the calmodulin antagonist W-7	Life Sci., 40, 1687 (1987)
森本史郎, 大野行弘, 松村靖夫	腎レニン顆粒からのレニン遊離におよぼすビタミンE欠乏の影響	Proceedings of Kawashima Conference on Vitamin E. 396 (1987)
松村靖夫, 宮脇宣明, 森本史郎	ビタミンE欠乏ラットの腎皮質切片からのレニン遊離について	Proceedings of Kawashima Conference on Vitamin E, 400 (1987)
玄番宗一, 中島秀人, 中島真弓, 中野さち子	Stimulation by Trifluoperazine of p-Aminohippurate Accumulation in Rat Kidney Cortical Slices	Arch. Int. Pharmacodyn. Ther., 288 (2), 290 (1987)
杉原句美, 中野さち子, 甲田美智子, 田中勝美, 福石信之, 玄番宗一	Stimulatory Effect of Cisplatin on Production of Lipid Peroxidation in Renal Tissues	Jap. J. Pharmacol., 43 (3), 247 (1987)
杉原句美, 中野さち子, 玄番宗一	Effect of Cisplatin on In Vitro Production of Lipid Peroxides in Rat Kidney Cortex	Jap. J. Pharmacol., 44 (1), 71 (1987)
玄番宗一, 中谷恵美, 寺本正己, 中野さち子	Effect of Cisplatin on Calcium Uptake by Rat Kidney Cortical Mitochondria	Toxicol. Lett., 38 (3), 291 (1987)
森本一洋, 田畑博文, 森坂勝昭	Nasal Absorption of Nifedipine from Gel Preparation in Rats	Chem. Pharm. Bull., 35 (7), 3041 (1987)
森本一洋, 森坂勝昭	In Vitro Release and Rectal Absorption of Barbitol and Aminopyrine from Aqueous Polyacrylic Acid Gel	Drug Dev. Ind. Pharm., 13 (7), 1293 (1987)
小久保博雅, 森本一洋, 石田寿昌, 井上正敏, 森坂勝昭	Bioavailability and Inhibitory Effect for Stress Ulcer of Cimetidine in Rats	Int. J. Pharm., 35 (1-2), 181 (1987)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
森本一洋, 岩本 勉, 森坂勝昭	Possible Mechanisms for the Enhancement of Rectal Absorption of Hydrophilic Drugs and Polypeptides by Aqueous Polyacrylic Acid Gel	J. Pharmacobio-Dyn., 10 (2), 85(1987)
森本一洋, 中井 亨, 森坂勝昭	Enhancement of Corneal Permeability of Hydrophilic Compounds and Macromolecular Compounds by Bile Salts	J. Pharmacobio-Dyn. 10 (5) s-114(1987)
森本一洋, 中井 亨, 森坂勝昭	Evaluation of Permeability Enhancement of Hydrophilic Compounds and Macromolecular Compounds by Bile Salts through Rabbit Corneas in Vitro	J. Pharm. Pharmacol. 39 (2), 124(1987)
冢瀬 悟, 森本一洋, 森坂勝昭	非ステロイド系消炎剤の皮膚透過に及ぼす影響	Ther. Res. 6(1), 129 (1987)
田畑博文, 岩本洋子, 森本一洋, 森坂勝昭	徐放出性坐剤に関する研究 (I) Aerosil を含む Diclofenac-Na 坐剤の放出性 bioavailability	薬剤学, 47(3), 141(1987)
岩本洋子, 田畑博文, 森本一洋, 森坂勝昭	カーボポール [®] を含むジクロフェナック-ナトリウム坐剤の放出性とバイオアベイラビリティ	薬剤学, 47(4), 244(1987)
酒井 清, 山根敏子, 齋藤友希子, 井川智恵, 他	Effect of Water Extracts of Crude Drugs in Decreasing Blood Ethanol Concentrations in Rats	Chem. Pharm. Bull., 35 (11), 4597(1987)
吉田嶺吉	Regular semigroups with S-inverse transversals	Proceedings of the 11th Symposium on Semigroups
熊本和正, 他	Full squat 運動における足関節, 膝関節および股関節の関節間力と関節モーメント	第8回日本バイオメカニクス学会大会論集, 1987, 102
[1986年追加]		
小延鑑一, 松本知子, 島 厚志, 寺田 弘, 沢西謙次	Middle Molecule Substances in the Hemofiltrate of Dialysis Patients. IV Phosphate-Dependent Action of Middle Molecule Fractions on Mitochondrial Respiration	Jap J. Clin. Chem., 15 (6), 345(1986)